

はじめに

平成 13 年度にそれまでの県衛生研究所と県公害センターとが再編統合され、新たに環境保健研究センターが発足してから 2 年が経過しました。平成 13 年度は、年度途中に旧庁舎からの移転があり、業務を実施しにくい時期もありましたが、平成 14 年度は、最新鋭の分析機器や施設が全期間フル稼働できるようになったことから、これらの施設整備に応えうる十分な研究成果、そして行政需要への対応を果たすべく、全職員一丸となって取り組んで来たところであります。

研究面では、国内外の大学や研究機関等との共同研究が本格的に進められ、21 世紀の PCB ともいわれている PFOS の新しい分析方法開発の成功など、国際的な最先端の研究成果も幾つか出ております。また、外部評価委員による研究評価を初めて実施し、より広い視点からの研究課題の設定と客観的な評価に耐えられる研究の実施を進めてまいりました。

行政需要への対応としては、青森・岩手県境の産業廃棄物不法投棄問題にかかる事案の対策と処理等を専門に行う産業廃棄物不法投棄緊急特別対策室が平成 14 年度に県庁内に設置されましたが、当センターにおいても不法投棄現場周辺の環境調査を行い有害物質の拡散状況等を調査したところであります。また、BSE や食肉の偽装事件さらには違法農薬の使用等が全国的に多発し、食に対する信頼が損なわれる事態に至ったことから、県庁内に食の安全安心プロジェクト（平成 15 年度からは食の安全安心推進監）が発足し、当センターにおいても食品分析の充実を図ったところであります。

今般、平成 14 年度の当センターの業務概要や研究成果等を取りまとめた岩手県環境保健研究センター年報第 2 号を発行いたしましたので、ご高覧頂ければ幸いです。

関係各位のこれまでのご指導、ご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくお願いいたします。

平成 15 年 9 月

岩手県環境保健研究センター

所長 鳥羽 良明